

コロサイ

人への手紙

1

心と体
信仰と行いを
一つとして

コロサイ人への手紙 1章1~17章

キリストの本質

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 挨拶・謝辞 1～7節

II. キリストの本質 8～17節

III. まとめと適用

心と体、信仰と行いを一つとして

コロサイへの手紙とは？

■ 著者 …使徒パウロ（書記テモテ）

■ 宛先 …コロサイ教会

■ 執筆時期・場所

…獄中書簡。どこかは不明。
エペソの獄中という説も。
(ピレモンとの関連)

■ 目的 …異端的教えへの反論



グノーシスとは？

■ 元々ギリシャ・ローマに深く浸透していた思想 … “知識” を意味。

→ “自己を知る者は、神を知る” 人と神の同一化 精神 = 神

■ 聖書的知識を都合良く取り込んで、**グノーシス主義**が誕生

→ 好き勝手に想像を膨らませ、聖書を勝手に解釈。

例) 蛇こそ人間に知恵を授けた恩恵者。神は抑圧者。

■ 霊・精神世界 = 善 VS 肉体・物的世界 = 悪

→ 英知(霊地)で覚醒 → 肉体(悪)を脱し → 精神世界・神の領域へ

グノーシスの問題点

■ 肉体 = 悪、精神 = 善という 善悪二元論の結果として…

- ① 肉体も含めて被造世界全体が悪 → **神の創造の業を軽視**
創造主は下位の神に!!
- ② 人間の魂・精神は神と同等 → **救いの必要性を根本から否定**
人の内にある**罪の問題も軽視**
- ③ 人間の体はいやしい被造物 → **キリストの受肉を否定**



I. 挨拶・謝辞 1～7節

現在のコロサイ(ホナズ)

挨拶 宛先 コロサイ1:1~2

神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロ*と、兄弟テモテから、

コロサイにいる聖徒たち、キリストにある忠実な兄弟たちへ。私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたにありますように。

*使徒としてキリストの権威の下での手紙

*手紙の対象は、残れる真の信仰者たち



現在のコロサイ(ホナズ)

謝辞 信仰と愛 コロサイ1:3~4

私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神* に感謝しています。

キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛* について聞いたからです。

*ここだけの表現!! …人性、神性の強調

*ピレモンへの手紙でも強調

➔兄弟姉妹や他教会への支援



ラオディキアの遺跡

謝辞 信仰者の希望 コロサイ1:5

それら*は、あなたがたのために天に蓄えられている望み*に基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。

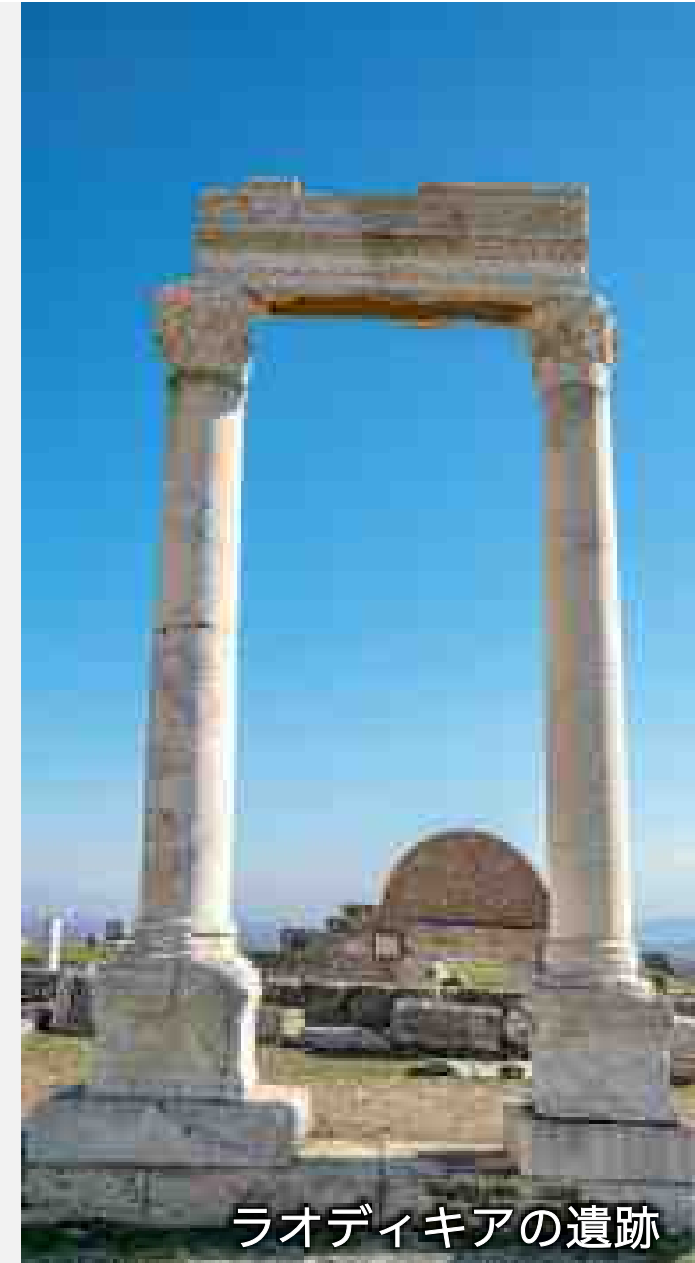
*コロサイの信者の信仰と愛

*主イエスに従う信仰と愛の実が →天に宝

天に宝を積む希望が →信仰と愛を強める

■キリストの福音が、コロサイの人々に

信仰と愛と希望をもたらした!!



ラオディキアの遺跡

謝辞 実を結ぶ福音 コロサイ1:6

この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。

- 福音を信じて救われ、福音を信じ続けて成長し、自ずと実を結ぶ。



ラオディキアの遺跡

謝辞 同労のしもべ コロサイ1:7~8

そういうもの*として、あなたがたは私たちの同労のしもべ、愛するエパfras*から福音を学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、御霊によるあなたがたの愛を、私たちに知らせてくれた*人です。

*福音を信じ、実を結ぶ者

*この地方出身？ パウロと獄中に(ピレ1:23)

*コロサイ教会とパウロの大切な仲介者



ラオディキアの遺跡



Ⅱ. パウロの願い 8～25節

コロサイ・ホナズ山

祈り 真実の知識 コロサイ1:9

こういうわけで、私たちがそのこと*を聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力*によって、神のみこころについての知識*に満たされますように。

*エパフロスを通じてコロサイで福音を信じた

*グノーシス的な偽りの知識ではなく

■ 主の御言葉は、内住される聖霊による支配の下にあって、真実の理解に至ることができる。



ラオディキアの遺跡

祈り 実を結べ コロサイ1:10

また、主にふさわしく歩み*、あらゆる点で主に喜ばれ*、あらゆる良いわざのうちに実を結び*、神を知ることにおいて成長しますように*。

*強調されているのは、信仰の当然の結果

➔実行し、実を結ぶこと。行い

■グノーシスの特徴の一つは、

➔精神性の強調 = 行いの軽視

■ヘブル的(聖書的)価値観では、信仰と行いはコインの両面。決して切り離せないこと!!



ラオディキアの遺跡

祈り 神の栄光 コロサイ1:11~12

神の栄光*の支配により、あらゆる力をもって強くされ、どんなことにも忍耐し、寛容でいられますように。

また、光*の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格*をあなたがたに与えてくださった御父に、喜びをもって感謝をささげることができますように。

*グノーシスでは、英知(靈知)を光とした

*信仰者の特権の確認



ラオディキアの遺跡

本論 御子の支配 コロサイ1:13~14

御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に*移してくださいました。

この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

*悪の支配→御子の支配 …逆戻りするな!!

■救いの道は、主イエス・キリストだけ。

「使徒 4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」



ラオディキアで発掘された
十字架

本論 神の本質なる方 コロサイ1:15

御子は、見えない神のかたち*であり、すべての造られたものより先に生まれた方*です。

*目には見えない神の本質が、
目に見えるかたちで現れた存在

→御子 = 父なる神 = 神のそのもの

*長子 (初子) → 父の権威を継ぐ者 = 父と同等
父のもの(被造世界)は、長子のもの

■キリストは、神そのものであり、
被造世界は、キリストが支配している。



ヒエラポリスの円形劇場

本論 万物の創造主 コロサイ1:16~17

なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。


御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。

■万物の創造主は、唯一の神だけ

キリストは万物の創造主 = 唯一の神



ラオディキアの遺跡



Ⅲ. まとめと適用 心と体、信仰と行いを一つとして

コロサイ・ホナズ山

グノーシスと精神世界(スピリチュアル)

- グノーシスの現代的なカタチが、精神世界(スピリチュアル)
- スピリチュアルは、肉体を悪とは呼ばないが、軽視する。
例)瞑想の強調、食べなくても生きられる、病気も癒やせる…etc
- 自分の感覚、感性の絶対化 → ビビッと来たのが絶対
聖書解釈も思いのままに
- 精神的・霊的に高められて宇宙と一体化 → 人間が神に!!

キリスト教界を蝕むグノーシス的・スピリチュアル的なもの

- 「肉」をタブー視。聖書の「肉」は、本来、利己的な性質のことだが…。
例) 経済的な問題、病気や人間関係の話がしずらい… → 肉的？
- 感性重視。お気持ちが大切。聖書の論理的な学びがおろそかに…。
→ 音楽で雰囲気盛り上げるのが霊的？ 霊的一致？
- 現実を無視した夢想的な祈り → 強く熱心に願えば叶う？
例) スピリチュアル的な癒やしのプログラムなどの蔓延、浸透
- 精神性の強調(心で信じれば!!) → 礼拝の形骸化 → 性的罪の軽視

子なる神キリストの身体性を確認しよう

「御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。コロサイ1:15」

■ 神が人となられたのが、主イエス・キリスト

➔ ダビデの子孫に、一人の赤ん坊として生まれ、大工の息子として成長した。

➔ メシアとしての活動開始後は、御言葉を教え、祈り、弟子たちと寝食を共にされた。

➔ 人々に嘲られ、鞭打たれ、茨の冠を被せられ、釘づけられた。十字架で死なれ、墓に葬られ、栄光の体で復活された。

クリスチャンの希望を確認しよう

■ クリスチャンが待ち望む神の国は、漠然とした霊的世界ではない。いわゆる天国(パラダイス)は、今死んだ信者の一時的な居場所。

■ キリストが栄光の体で再臨され、造り変えられた天地が、神の国。すべての信者も復活の栄光の体を与えられて地上に生きる。

■ 神の計画は、歴史的に進展し、地上において完全に実現する。計画の中心に、一つの血族・イスラエルが置かれ続けている。

クリスチャンの希望は、この地上に実現する神の王国

★ 地上での使命を確認しよう ★

■ 身体性が薄れる世界で、人々はますます神から離れていく。クリスチャンの使命は、置かれた地上の環境と直結している。遣わされ、生かされている土地を、そこに生きる人々を愛そう。

■ 私の精神も身体も、日々の生活も、すべては神の所有とされた。このすべてをもって、遣わされたこの地で主を証ししていこう。

■ イスラエルの救いを祈り、主イエスの再臨を待ち望もう。心と体の痛みをもって、主の憐れみと救いを祈り求めて行こう。

心と体、信仰と行いを一つとして、主を証ししていこう

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ} 罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ} 神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

わたし か からだ いた なか しゅ いの
私たちと変わらぬ体をもって、痛みのただ中で主イエスは祈られました。

ちち かれ すく なに わか
「父よ。彼らをお救いください。何をしているか分からないのです」と。

しゅ えいこう からだ もど せかい かいふく
主イエスは、栄光の体で戻られ、この世界を回復されます。

かみ ぎ かみ くに きぼう わたし ち つか
神の義がもたらす神の国を希望として、私をこの地に遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」